

大型方形周溝墓

弥生時代中期



大型方形周溝墓

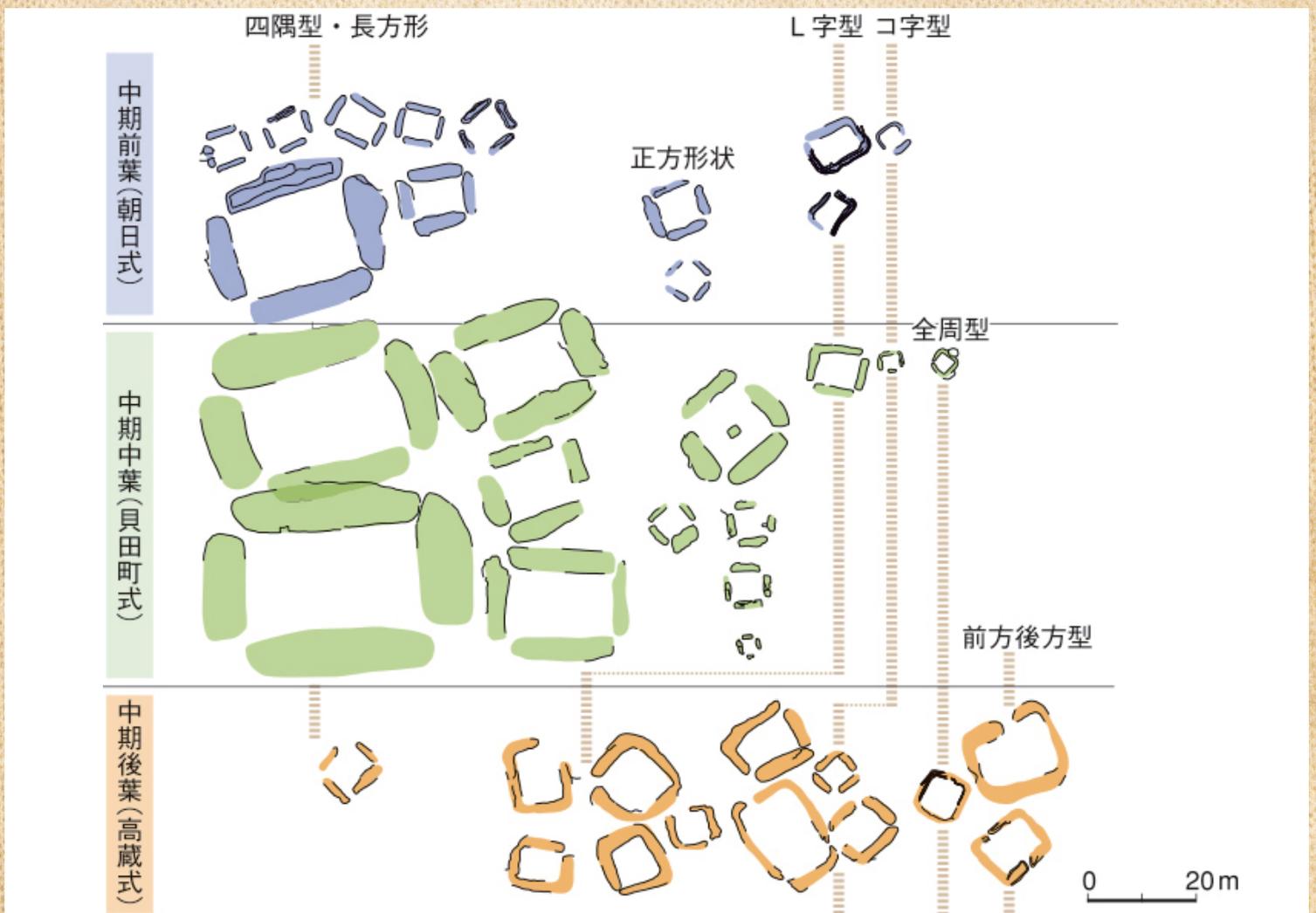


土器棺

朝日遺跡では、弥生時代中期前葉から造墓活動が明らかになっている。谷の南北の居住域をはさんで、東と西に方形周溝墓を主とする大きな墓域がつくられ、それぞれ東墓域、西墓域と呼んでいる。

この二つの墓域には、墓の形や造営の仕方に大きな違いがある。西墓域は東墓域より若干古く5～10mの中型サイズの墓にほぼ統一され、連接または列状に配置されている。一方、東墓域は、核となる大型の墓が築かれ、これをとりまくように中小の墓がブロック単位でつくられていった。東西墓域の違いは、集落に居住した人々の出自や階層の違いを表しているのかもしれない。

弥生時代中期の方形周溝墓の形と大きさ



朝日遺跡では、方形周溝墓の他にも、土器を使用した土器棺墓、墓坑に直接埋葬する土坑墓などがある。